

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和2年5月号



全農千葉県本部園芸事業の取組

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部長 熱田 義之

全農千葉県本部では、3か年計画で定めた重点実施策や実行具体策を実践するとともに、全農自己改革の取組を進めます。また、「農業生産の拡大」と「農業者の所得増大」のため、以下の具体的な取組を実践します。併せて台風等自然災害への復旧に向けた取組を進めます。

全農千葉県本部では、台風等自然災害への復旧に向けた取組を行うとともに、「オール千葉」として生産基盤を強固にし、安全・安心で美味しい青果物・花きの生産振興と、大消費地に近い立地条件を活かした販売力強化を図るため、千葉県・(公社)千葉県園芸協会と連携し、次の重点実施策に取り組みます。

1 生産拡大対策

- (1) 出荷量の多い主要7品目の生産の長期化・周年化を推進することにより市場占有率の向上につなげます。
また、地域特産品目(レタス・菜花・枝豆・大和芋・西瓜等)は、生産量の維持・拡大を図りつつ計画的な販売に取り組みます。
- (2) 出荷規格の統一・簡素化を進め、販売ロットの拡大と出荷時の負担軽減、「オール千葉」体制の強化を図ります。
- (3) 増加傾向にある青果物の加工・業務用需要に対し、輸入品からのシェア奪回と国産の消費拡大につなげるため、実需者からの要望に応じたマーケットインによる生産振興を進めます。
- (4) 千葉県農業者総合支援センターやJA-TACと連携し、地域農業を担う経営体に対して、実需者ニーズに基づく生産・販売提案を行います。

2 販売力強化対策

- (1) 人口3,800万人を有する東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)を主なターゲットエリアとして、パートナー市場と販売戦略を共有し、取引先を明確にした予約相対取引(市場契約)並びに別枠発注販売(先売り)の契約的販売を拡大します。

- (2) 産地から東京圏内の実需者配送拠点に鮮度の高い青果物を直納することにより、顧客を囲い込み、安定した販路を確保するとともに、配送コストの削減による生産者の手取り向上に取り組みます。
- (3) 千葉県産青果物を重点的に取り扱う販売店で「がんばろう千葉」を合言葉に産地応援・復旧応援フェアを継続的に行い売場の確保とイメージアップを図ります。

3 直販事業の強化

- (1) 消費形態の変化と多様化する実需者ニーズに対応し、加工・業務用向けの安定供給と取扱拡大に取り組みます。
- (2) 直接取引や中間事業者を経由した取引等、複数の販売方法により販路を確保するとともに、パッケージ・集配送機能の強化等による量販店対応に取り組みます。
- (3) 協同組合間提携を踏まえ、商品開発・生産振興・産地交流を進め、生協向け販売を拡大します。

4 県産農産物の輸出促進

海外市場ニーズに対応した輸出向け品目の生産振興により、輸出事業に取り組むJAの拡大を図り、県産農畜産物の安定的出荷体制を構築します。

5 台風等自然災害への復旧に向けた取組

台風15号・19号、21号による豪雨により、甚大な被害を受けた産地の復旧に向け、地区別協議会による取組を継続するとともに、「がんばろう千葉」を合言葉に産地応援・復旧応援フェアを展開します。

野菜ニュース



「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業 (園芸施設スマート農業推進型)の拡充について

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室 副主査 江澤 和哉

『「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業』の園芸施設スマート農業推進型の補助対象に「日射等連動かん水システム」「ミスト装置」「複合環境制御装置」が追加されました。ハウス内環境を見える化し、最適化することで生産性向上を図る環境制御の取組に是非御活用ください。

県では、ICT等の活用により生産性を向上させるスマート農業を推進するため、平成30年度から『「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業』の園芸施設スマート農業推進型を開始し、既存の園芸施設への環境モニタリング装置や炭酸ガス施用装置等の導入について支援しています。令和2年度からは、更にステップアップを図る生産者を支援するため、補助対象を下記のとおり拡充しました。

1 実施主体

認定農業者、認定新規就農者

2 対象品目

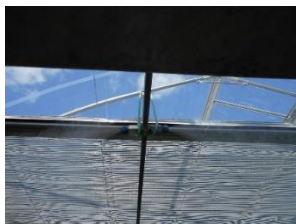
炭酸ガス施用等の技術により単収向上が見込まれる施設園芸品目

3 補助対象

- ①環境モニタリング装置
- ②炭酸ガス施用装置、炭酸ガス濃度制御装置、循環扇
- ③日射等連動かん水システム
- ④ミスト装置
- ⑤複合環境制御装置 (③④⑤が拡充部分です)



③ 日射等連動
かん水システム



④ ミスト装置



⑤ 複合環境制御装置

- ※1 パソコンやスマートフォン、タブレット端末等の機器及び環境モニタリング装置の通信費等は補助対象外とします。
- ※2 環境モニタリング装置及び炭酸ガス施用装置の導入を必須とします(ただし、既に導入されている場合はその限りではありません)。
- ※3 環境モニタリング装置は、温度や湿度、炭酸ガス濃度等の複数の項目をリアルタイムで測定できる性能を有するものとします。
- ※4 日射等連動かん水システムは、日射センサー等の測定値と連動した水管理等ができるものとします。
- ※5 ミスト装置は、作物の生産性向上を図るための湿度管理等ができるものとします。
- ※6 複合環境制御装置は、炭酸ガス施用装置を含む複数の機器を制御できる性能を有するものとします。

4 補助率

1/3以内(但し事業費の上限は300万円未満とします)

5 「園芸産地生産性向上計画」の策定

各産地が品目ごとの生産性向上ビジョンを策定した「園芸産地生産性向上計画」に位置づけられた生産者が本事業を行うことができます。産地の規模は、構成農家数3戸以上、同一品目の施設面積がおおむね1ha以上とします。

6 生産改善目標

事業を実施した施設における単位面積あたり収穫量の10%以上増加を目標年次(事業実施から3年後)までに達成することとします。

7 応募時期

令和2年度については、補助金配分予定額が満額に達していないことから、追加募集を実施します。募集期間については、お問い合わせください。なお、事業実施にあたっては市町村の予算措置が必要であり、申請は市町村を経由して農業事務所企画振興課へ提出となります。

8 問合せ先

最寄りの各農業事務所 企画振興課 もしくは
農林水産部生産振興課 園芸振興室
TEL: 043-223-2882

野菜ニュース



農業用パイプハウスの自力施工に係る研修会を開催

生産振興課 園芸振興室

(執筆者: (現) 千葉農業事務所 企画振興課 主査 槇晋介)

県とJA全農ちばは、昨年度に発生した一連の災害からの早期営農再開に向けて、農業用パイプハウスの自力施工に係る研修会を開催しました。県内各地から約200名の参加があり、座学や実技を通じて自力施工に係る技術習得が図られました。

1 取組背景と概要

本県農業は、昨年に発生した台風15号や19号、10月下旬の強風・大雨により、各種施設の損壊や果樹の倒木、農作物の冠水や流亡など、450億円を超える過去に類を見ない大きな被害を受けました。その中でも、育苗や生産、貯蔵等で幅広く利用される農業用パイプハウスについては、北総台地や南部地域を中心に県全域で大きな被害があったところです。県では、被災農業施設等災害復旧事業を中心に再建に向けた支援を進めているところですが、工事が集中することで、完成するまでに相当の期間を要する可能性があります。

そこで県とJA全農ちばは、早期の営農再開の一助とすることを目的に「農業用パイプハウスの自力施工に係る研修会」をJA全農ちば営農技術センターで開催しました。本研修会では、農業用パイプハウスの自力施工に係る手法やポイントを理解することで個別の自力施工の推進を図るとともに、習得した知識や技術等を各産地に持ち帰ることで地域単位における再建の推進を目的としております。また、開催にあたっては、県内全域の生産者が参加できるよう地域ごとに日程を分けて計3回(2/7,14,21)実施するとともに、円滑な技術習得に向けて、座学だけでなく実際に資材に触れて施工を行う実技についても行うこととしました。

2 研修会

研修会全体を通じて、講師はJA全農及びJA全農ちばが担当しました。座学においては、JA全農が作成したマニュアルやパイプハウスの建て方の動画を用いた講演が行われ、必要となる工具や資材に加え、施工の全体概要や具体的な作業手順、注意点等について説明がありました。

実技においては、直角を確保するための「地どり」やアーチパイプの埋め込み・接続、被覆資材の展張に向けた各種資材の設置など、施工にあたって必要な項目について、講師の指示の下、実際に生産者等が作業を行いました。また、会場に隣接したほ場に設置された補強用資材のモデルハウス(「災害に強い施設

園芸産地づくりに向けた被害防止研修会」で設置)についても休憩時間等で紹介したところ、数多くの生産者が興味深く見学し、補強手段等について様々な質問があがりました。

研修会全体では、生産者を始めとして約200名の参加となり、「手順が分かって良かった」「修復の方法も知りたい」といった意見が寄せられたことから、再建手段としての自力施工に対する興味の高さが伺えました。また、当日に実施したアンケート結果によると、参加した生産者の約6割が自力施工を予定しているとともに、栽培品目が水稻、野菜、果樹、花きと多岐に渡ることが分かりました。

県とJA全農ちばでは、今後も農業用パイプハウスの自力施工や補強に係る取組を推進することで、産地の復興と災害に強い産地づくりに取り組んでいきます。



野菜ニュース



JA 市原市姉崎蔬菜組合が JGAP 団体認証を取得！ — 信頼できる産地になるために —

千葉農業事務所 改良普及課
(執筆者：(現) 千葉県農林総合研究センター
花植木研究室 研究員 高橋 玄)

JA 市原市姉崎蔬菜組合は、全組合員で一丸となり、衛生管理体制の見直しや労働安全の確保を行い、令和2年1月に JGAP 団体認証を取得しました。系統出荷組織としては県内で初事例となり、JGAP 認証を受けただいこんを年間 130 万ケース出荷していきます。

1 JA 市原市姉崎蔬菜組合の概要

JA 市原市姉崎蔬菜組合は、約 200ha のだいこんを栽培している県内でも有数のだいこん生産団体です。この組合は 15 戸と少数で構成されていますが、共同の洗浄選別施設（以下、施設）を活用することで、規模を拡大してきました。

当組合のだいこんは、収穫から出荷までの時間が短く、収穫した翌日には市場に並びます。そのため、鮮度が良く、市場からの評価も高いことも特長の一つです。

2 取組の動機について

世の中の情勢として、食への安全性の関心が高まる中、千葉農業事務所と JA 市原市、市原市で GAP についての講習会を開催しました。GAP とは「農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組」のことです。GAP にもいくつか種類があり、その中でも JGAP や GLOBAL GAP 等は第三者から審査を受けるため、認証を取得することで農場の安全性を実需者に対してアピールすることができます。

講習会を通して、組合員から「今後産地を発展させていくために、GAP 認証を取り他産地との差別化を図りたい」という声上がり、組合として JGAP 団体認証を目指すことになりました。

3 認証に向けた取組

JGAP 団体認証を取得するためには、いくつかのハードルがありました。県内には、JA を事務局とした団体での認証事例はまだなく、情報収集とセルフチェックによる現状の把握から始まりました。セルフチェックは関係機関で JGAP の各項目について説明しながら行い、組合員は不適合事項への対策について話し合いました。それにより、組合員間での目合わせもでき、今後取り組むべき項目について整理できました。



写真1 セルフチェックの実施

現状把握後は、各組合員が農場周辺の整理整頓や従業員に対して教育訓練を行いました。その後、個々の取組は講習会で共有し、互いに参考にできる体制を作りました。優良事例として、農薬の写真と登録内容、在庫台帳を扉に明示した農薬保管庫があります。

施設については、微生物数の調査を行い、微生物による食品汚染のリスクを評価しました。その結果をもとに、掃除手順のマニュアル作成や従業員に対する教育訓練を実施し、汚染のリスクを低減しました。



写真2 農薬保管庫には誤使用を防ぐ資料を明示

4 今後の方針について

取組の結果、令和2年1月4日に、JGAP 団体認証を取得しました。系統出荷団体としては、県内初事例となり、産地の全経営体で認証を取得した事例は全国的に見ても稀有です。

今後は、安全性を確保しただいこんとして、販路の拡大を図り、有利販売等に繋げていきたいと考えています。

野菜ニュース



紫外光を用いたイチゴのうどんこ病とハダニ類の防除

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 生産環境研究室
(執筆者 (現) 安房農業事務所 改良普及課 普及指導員 大坂龍)

紫外光ランプと光反射シートをハウス内に設置し、夜間に紫外線照射をすると光反射シートの効果でイチゴの葉裏まで紫外光が当たるようになり、うどんこ病とハダニ類を同時に防除することができます。

1 はじめに

イチゴの栽培は長期間にわたり、その間にうどんこ病とハダニ類の防除のため頻繁な薬剤散布が必要です。そこで、夜間の紫外光照射による、イチゴのうどんこ病とハダニ類を防除する技術を紹介します。

2 紫外光ランプと反射シートの設置及び使用方法

紫外光ランプはパナソニックライティングデバイス社から市販されている UV-B 電球形蛍光灯反射傘セット、紫外光を葉裏に照射するための光反射シートはデュポン社のタイベックが適します。土耕栽培の場合、ランプを畝から 1.8m の高さに 3m 間隔で設置し、午後 10 時から翌午前 1 時の 3 時間照射します。また、光反射シートはイチゴの定植後に、黒マルチの上から畝の両裾とイチゴの条間に設置します (写真)。

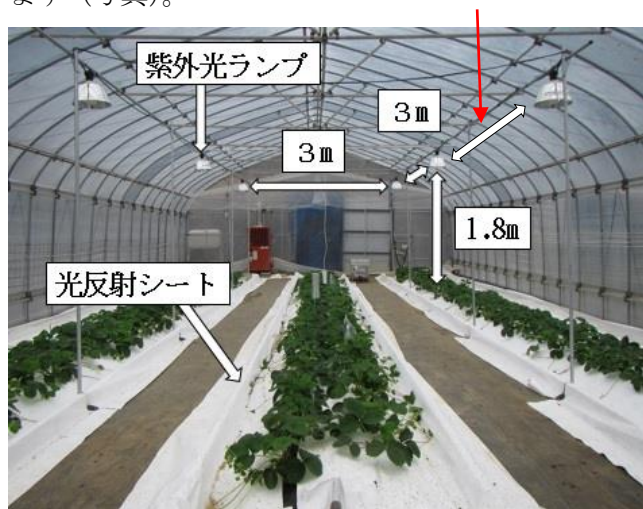


写真 イチゴ栽培における紫外光ランプと光反射シートの設置例

3 紫外光によるうどんこ病とハダニ類の防除効果

紫外光の中でも人に日焼けを引き起こす光は UV-B と呼ばれ、この光を照射されたイチゴではうどんこ病に対する防御機構が働くことが知られています。また、この光はハダニ類の卵に当たると孵化を抑制します。

紫外光を照射することでうどんこ病の発生を抑制し、殺菌剤散布回数を大幅に削減することができました (図)。また、ハダニ類の発生も抑制するため、殺菌剤の散布回数は慣行防除の 6 回に対して 1 回に削減することができました (データ省略)。

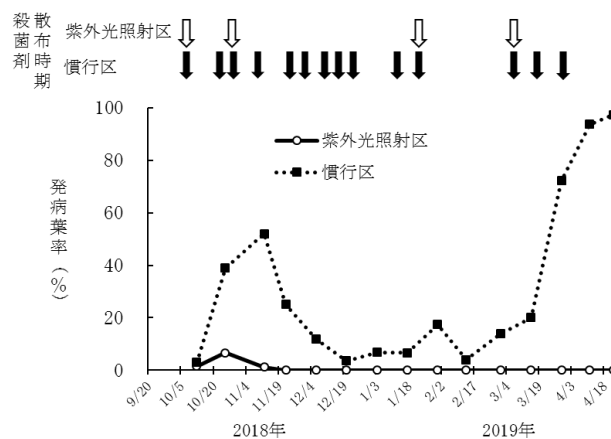


図 紫外光照射区と慣行区のうどんこ病の発生と殺菌剤散布時期

4 注意点

紫外光は人体への悪影響があるため、夜間に照射します。「とちおとめ」では光反射シートの設置により地温が下がり、生育が遅延するため、光反射シートを用いず、葉裏にいるハダニ類の防除に天敵を導入したり、光反射シートの設置幅を減らします。また、「紅ほっぺ」等の品種は厳冬期に紫外光による葉焼けや裂果が起こるため、照射時間を短くする等の工夫が必要です。

なお、資材費として紫外光ランプ 48,000 円 (60 球/1 年/10a)、光反射シート (100,000 円/1 年/10a) 等がかかります。

5 おわりに

本研究は戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)「次世代農林水産業創造技術」(平成 26~30 年度)で実施しました。詳細については、農研機構の HP「紫外光照射を基幹としたイチゴの病害虫防除マニュアル」を参照下さい。

千葉県立農業大学校オープンキャンパス・1日体験入学の開催について

千葉県立農業大学校

農業大学校の授業や実習を見学・体験しませんか。

キャンパスツアーでは、講義室や学生寮、農場、畜舎などの学校設備を御案内します。

申込方法：ホームページより様式をダウンロードしてメールでお申込みください。

本校 HP <https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>

メール noudai01@mz.pref.chiba.lg.jp

問合せ先：千葉県立農業大学校農学科

〒283-0001 東金市家之子 1059

電話：0475-52-5122 FAX：0475-54-0630

1日体験入学 実習体験 キャンパスツアー	
第1回	8/21 (金)
第2回	9月予定

※ 実施時間 10：30～15：00

※ 申込締切 実施日の2週間前

オープンキャンパス 授業や実習の見学 キャンパスツアー	
第1回	7/27 (月)
第2回	7/29 (水)
第3回	8/18 (火)
第4回	8/19 (水)
第5回	8/20 (木)

※ 実施時間 10：20～13：15

※ 申込締切 実施日の2週間前

千葉県野菜品種審査会の開催について

千葉農林水産部生産振興課

千葉県野菜品種審査会は、県内の野菜産地に適した優良品種の選定と、野菜種子の素質改善を通じ、県産野菜の品質向上と野菜産地の振興を図ることを目的として昭和27年から開催しています。

○第68回 千葉県野菜品種審査会の開催計画

令和2年度は、とうもろこし、にんじん、キャベツ、ほうれんそうの4品目を対象に実施します。審査会の開催場所、審査時期等は以下のとおりです。

第68回千葉県野菜品種審査会開催計画

品目	作型	は種期	審査時期	ほ場地	担当機関
にんじん	春夏どり栽培	2月中旬	6月中旬	香取市	農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所 畑地利用研究室
とうもろこし	マルチ栽培	4月中旬	7月上旬	館山市	農林総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・花き研究室
キャベツ	秋冬どり栽培	8月上旬	11月上中旬	旭市	農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室
ほうれんそう	2月どり栽培	11月下旬	2月中下旬	千葉市	農林総合研究センター 野菜研究室